

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和4年4月14日（木）
午前9時25分 開会
午前10時29分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 上田 伴子
副委員長 芹澤 正志
委員 浅田 徹、荒木 慎太郎、
石田 清、太田 智博、
竹中 理、福田 嗣久
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本 英津子
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 上田 伴子

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2022年4月14日(木) 9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委員】

2022. 4. 14

職 名	氏 名
委員 長	上 田 伴 子
副 委員 長	芹 澤 正 志
委 員	浅 田 徹
委 員	荒 木 慎大郎
委 員	石 田 清
委 員	太 田 智 博
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課長	平尾 喜彦
都市整備課長	久田 涉	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
		出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
		但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

8名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局次長	坂本 英津子

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2021. 11. 19

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関する事

午前9時25分開会

○委員長（上田 伴子） それじゃあ、改めまして、皆さん、おはようございます。少し早いですが、皆さんおそろいですので、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

初めに、私、今回また委員長をしております上田伴子でございます。

今日は久方ぶりに雨が降って、ちょっと気温が落ち着いたんですけども、大変暑さ寒さが激しい季節ですので、気をつけながら健康に留意して委員会、進めていきたいと思っております。

いろんな問題がまた多々ありますけれども、皆さん、よろしく願いいたします。それでは、座って失礼します。

それでは、協議に入りますまでに、今回は年度当初の委員会であり、4月1日付で人事異動で当局職員に異動がありましたので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をいただきたいと思っております。

まず、委員からですが、私は委員長の上田伴子です。どうかよろしく願いいたします。

○委員（芹澤 正志） おはようございます。副委員長の芹澤でございます。よろしく願いいたします。

○委員長（上田 伴子） じゃあ。

○委員（竹中 理） こっちから。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（竹中 理） おはようございます。委員の竹中です。よろしく願いいたします。

○委員（石田 清） 委員の石田です。よろしく願いいたします。

○委員（福田 嗣久） おはようございます。福田と申します。

○委員（浅田 徹） おはようございます。浅田でございます。よろしく願いいたします。

○委員（荒木慎太郎） おはようございます。荒木です。よろしく願いいたします。

○委員（太田 智博） おはようございます。太田です。よろしく願いいたします。

○委員長（上田 伴子） 次に、都市整備部建設課、都市整備課、各振興局地域振興課の順でお願いいた

します。最後に、事務局、お願いいたします。

では、どうぞ。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 都市整備部長の澤田です。引き続きよろしく願いいたします。

○建設課長（富森 靖彦） おはようございます。建設課、富森です。引き続きよろしく願いいたします。

○都市整備課長（久田 渉） おはようございます。4月から都市整備課長となりました久田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） おはようございます。城崎振興局地域振興課の橋本です。よろしく願いいたします。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興局地域振興課の平尾です。よろしく願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） 皆さん、おはようございます。日高振興局の地域振興課参事で、初めて参加させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） おはようございます。出石振興局地域振興課参事の川崎です。よろしく願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） おはようございます。但東振興局地域振興課参事の小川です。よろしく願いいたします。

○事務局次長（坂本英津子） おはようございます。事務局の坂本です。よろしく願いいたします。

○委員長（上田 伴子） それでは、協議事項を始めます前に連絡をさせていただきます。

委員会の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてからマイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。

それでは、協議事項に入ります。まず、委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんはSide Booksのフォルダ、交通網問題対策等調査特別委員会、4月14日の中に配信しておりますので、資料をご覧ください。

では、よろしく願いいたします。

それでは、建設課、都市整備課の順でお願いいたします。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） よろしくお願ひいたします。

建設課からは2件につきまして説明させていただきます。

5ページをお開きください。まず、北近畿豊岡自動車道の事業促進です。

現況と課題、基本方針ですが、ご存じのように北近畿豊岡自動車道につきましては、豊岡市から春日までの全体延長約73キロの高規格道路となっております。そのうち遠阪トンネルも含めました約66キロが現在供用されております。2020年度に豊岡道路（Ⅱ期）の5.1キロが事業化されましたことにより、全線事業化となっております。

この道路につきましては、高速自動車交通網の空白地帯であります但馬地域の発展を促すために、引き続き全線の早期整備が課題となっておりますので、毎年行っております早期実現の促進大会、それから要望活動ということで、与党政党、国、県等に強くその必要性をアピールしていくこととしております。

また、事業推進に当たりましては、国、県の関係機関との連携を一層強化しまして、地元調整や用地取得の推進に取り組んでいくこととしております。

概要です。まず、豊岡道路、但馬空港インターチェンジから仮称豊岡インターチェンジまでの2キロの区間ですが、こちらにつきましては、2022年度については21億円の予算がついております。改良工事であったり、トンネル2基ありますが、その工事、それから橋梁上下部工の工事等を鋭意進めていかれます。

それから2つ目ですが、豊岡道路（Ⅱ期）、こちらにつきましては、仮称豊岡インターチェンジから仮称豊岡北ジャンクションインターチェンジまでの5.1キロの区間になりますが、こちらも2022年度の予算につきましては2億5,000万円がついております。今年度は調査であったり用地測量

等をされるというふうにお聞きしております。

なお、この豊岡道路Ⅱ期につきましては事業化から3年目ということになりますので、まだ正式には決まっておりますが、もしかしたら、現場に着手ということで、起工式ということが実施されるかもわかりません。市のほうでも100万円の起工式用の費用ということで予算措置をさせていただいております。

続きまして、6ページですが、3番目です。早期実現促進大会ということで、こちらにつきましては毎年、山陰近畿自動車道の促進ということと併せまして行っております、今年度につきましては現在のところ、8月6日の土曜日に豊岡市民会館で開催予定としております。

それから4番目の要望活動ですが、こちらにつきましても引き続き国交省、財務省、それから近畿地方整備局、それから政権与党等に要望活動をする予定としております。

続きまして、7ページをご覧ください。山陰近畿自動車道の事業促進です。

こちらの道路につきましては、鳥取市、それから豊岡市、宮津市までの約120キロの高規格道路となっております。県内延長約51キロありますが、そのうち現在、約23キロが供用されております。

豊岡市内につきましては、2021年度に竹野道路が事業化となっております、現在、測量であったり調査、設計が進められております。

また、2022年度、今年度ですが、城崎道路につきまして、国のほうで直轄による権限代行実施の検討を行うための調査に着手するということが発表されております。

基本方針につきましては、先ほどの北近畿豊岡自動車道と同様に、早期実現促進大会を継続して開催するというのと、また、要望活動につきましては、鳥取県や京都府とともに連携しながら、与党政党や国、県等に強く必要性をアピールしていくこととしております。

概要ですが、まず1番の浜坂道路Ⅱ期、これは新温泉町の区間になりますが、こちらが、2022年

度の予算ですが、35億4,400万円ということで、トンネルであったり橋梁上下部工事を引き続き実施をされるとお聞きしております。

それから2つ目の竹野道路ですが、こちらは、2022年度予算ですが、8,900万円ということで、調査、設計等を実施されます。

それから3つ目、城崎道路ですが、先ほど申しましたように、今年の2月に都市計画決定がされておりまして、今年度につきましては国のほうで直轄調査を実施するというので、ちょっと金額までは分かりませんが、調査を実施していただけるというふうにお聞きをしております。

それから4番ということで、竹野道路や城崎道路も含まれますが、佐津インターチェンジから城崎の府県境までの約20キロですが、既に一応ルート帯ということで、2キロ幅のルートが決まっております。

それから、8ページに入りまして、5番ということで早期実現促進大会は、先ほどの北近畿豊岡自動車道と一緒にしまして、8月6日に開催予定としております。

また、要望活動といたしましても、北近畿豊岡自動車道と併せまして、国交省、財務省、近畿地方整備局等に要望予定としております。

最後、その他ですが、山陰近畿自動車道整備推進決起大会というのが、毎年東京で行われております。昨年は、新型コロナの関係もありまして、ウェブでの開催となりましたが、また東京等で開催されます場合には、積極的にこちらのほうへも参加を予定しております。

建設課からは以上です。

○委員長（上田 伴子） ありがとうございます。

それでは、次、都市整備課のほう、お願いいたします。

○都市整備課長（久田 渉） 委員長、都市整備課、久田です。

○委員長（上田 伴子） はい。

○都市整備課長（久田 渉） 都市整備課からは3件ございます。空港、バス、鉄道ということで、ま

ず、空港のほうから説明をさせていただきます。

9ページをご覧ください。コウノトリ但馬空港は、1994年の開港以来、豊岡市をはじめ但馬地域の活性化に大きく寄与してきたところです。

昨年の2021年度の利用は、前年度と比較し回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は継続しております。結果的には、3月31日時点の速報値で、対前年度5,398人増のトータル2万1,046人という結果でございました。

今年度もコロナ禍の状況で大きく利用に影響を及ぼすこととなりますが、引き続き可能な範囲での利用拡大を図りつつ、但馬と首都圏を除く東京直行便の開設に向けた取組と、但馬一伊丹路線の年間目標利用率を70%とするプロジェクト、「ターゲット70（ナナマル）」を継続して、積極的に取り組むこととしております。

概要についてです。主な取組の1点目についてですが、市民等に対する但馬路線航空機運賃の助成や小学校社会見学への支援をはじめ、但馬空港の利用を促進します。

2点目としましては、県但馬空港推進協議会と本市が連携をさせていただきまして、東京直行便開設に向けた日本航空及び日本エアコミューターへの要望を、現在のところ4月中旬を予定しております。

3点目については、記載のとおりでございます。

それから、付け加えまして、前回3月の特別委員会の翌日の3月24日に、第4回のコウノトリ但馬空港のあり方懇話会が開催をされております。その中で、コロナ禍の収束見通しが今なお不透明であることから、航空需要の回復や国内航空会社の経営状況が一旦回復することが見通せた段階で再協議をしますといったような中間取りまとめがなされておりましたので、報告をさせていただきます。

それから、続きまして、10ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進ということでございます。

現況と課題、基本方針については、地域公共交通の基盤であるバス交通について、今年度も継続して、国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主

要バス路線の維持確保に努めます。

また、路線代替交通として運行する市営バスイナカーについては、8路線で継続運行を行います。このうちの2路線に当たります竹野南地域で、予約制乗合タクシーを活用した交通への年度内の転換を計画しております。地域主体交通のチクタクについても、今年度引き続き、出石、但東の4つの地域で継続運行いたします。

今後は、地域の実情に応じた新たな交通モードの検討を進め、公共交通の基盤であるバス交通の維持、推進を図ることとしております。

概要についてです。主な取組についてですが、まず1点目のバス路線の維持につきましては、先ほど現況で説明させていただきましたとおりでございます。

2点目の地域の実情に応じた新たな交通モードの検討です。現在、竹野南地域のイナカー、竹野南線と床瀬三原線にあつては、9月末まで運行をいたしますが、昨年度実証実験を行った乗合型タクシーを10月から本格実施することで、現在、地元とも調整をしているところでございます。

3点目は記載のとおりです。

4点目として、公共交通への市民の関心を高め、利用者の維持、増加を図ることを目的に、全但バス株式会社の協力の下、行ってまいりましたノーマイカーデーを毎月2回に拡大し、利用促進に取り組むものです。これは、毎月第2水曜日に行ってきたノーマイカーデーの取組を、今年度、2022年度からは3か年の実証実験として、第4金曜日にも実施しようとするものです。1日500円で乗り放題のノーマイカーフリーチケットを、市内各営業所か市内運行の路線バスやコバスの車内で購入いただくと、市内の全バス路線とコバスに乗車できることに加えまして、今回からイナカーやチクタクでも乗車できることとしています。

また、このチケット販売ですけれども、各振興局でも販売をしたいということで、現在のところ考えているところでございます。以上です。

それから次に、3点目の鉄道交通の利用促進についてでございます。

現況と課題、基本方針についてです。通勤、通学等生活交通に加え、広域的な移動手段である鉄道交通は重要な交通基盤であると考えております。

鉄道についても、自家用車の普及や沿線人口の減少等に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で、より利用者数は大幅に減少し、極めて厳しい状況にございます。

その中で、JR西日本では、定期ダイヤの改正に加え、コロナ禍による需要に応じた大幅なダイヤ改正を行われるなど、尽力をされているところです。しかし、今後、輸送密度が低い非効率区間の見直しが行われる可能性があり、注視していく必要があります。

また、京都丹後鉄道では、維持活性化を推進するため、2015年度より運行管理部門と資産管理部門を分けて経営します上下分離方式というものが導入されております。沿線府県市町が連携し、引き続き利用者の利便性向上対策と運行事業所への支援を行うものです。

概要についてです。まず、主な取組についてですが、1点目の利便性向上のための機運醸成と要望活動、ここに5項目上げております。それと、引き続いて2点目の京都丹後鉄道に対する支援ということで、2つ項目を上げておりますが、いずれも記載のとおりでございます。

また、こちらにつきましても、前回3月23日の特別委員会以降で進捗のあったものについて、2点報告がございました。

まず1点目です。先日ですけれども、JR西日本の経営改善に伴う路線見直し方針について、11日に記者発表がありまして、12日の新聞でローカル線の収支状況が新聞報道されました。

開示対象となっておりますのは輸送密度が2,000人に満たない路線、本市に関わる路線でいいますと山陰線でございます。区間は城崎温泉駅から浜坂駅、輸送密度が693人、今回出た赤字額としまして11億8,000万円となっております。

JR西日本としては、厳しい運行状況を開示することで沿線自治体と課題を共有して議論を始めた

いとの見解でございます。この後の展開について、今現在、大変危惧しているところです。

それから次に、2点目としましては、京都丹後鉄道の今の上下分離方式のWILLER TRAINSについての支援です。これは、現在までも新型コロナウイルス感染症の影響による定期外収入の減少に係る支援を、現在4回支援をさせてもらっているところですが、さらに5回目の要請が本運営協議会の事務局である京都府より先日ございました。

現在のところ支援額がまだ、確定しておりませんので、この金額が固まった上で議会のほうには報告をしたいと考えております。

都市整備課は以上でございます。

○委員長（上田 伴子） それでは、説明は終わりました。

質疑、意見等はありませんか。

浅田委員。

○委員（浅田 徹） 今、説明ありました鉄道交通、新たに、おっしゃいますように、4月11日に西日本が発表したことの中で、具体的にはまだどういふうなことはないわけですけども、この中で、概要の1番に山陰本線と播但線の運行ダイヤ検討会議の開催というようなことで上げておられます。この辺の情勢と、今までどういう内容で話されてきてきたか、そのポイント。それから、これが出て、今後近々にこういう会議を持たれるような予定があるのか。それと、この関連しての、どういいますんか、事務局といいますんか、そういうところはどこが持っていて、言わばこの会議の運営をされてるのか。ちょっとその辺について教えていただければと思います。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すみません。基本的に今3つの同盟会ありまして、北兵庫鉄道複線電化促進期成同盟会、これは但馬広域行事務組合で…。

○委員（浅田 徹） 特に山陰線、今のダイヤ検討会議、3つの中で、この検討がされてるということですか。今、僕が欲しいのはこの山陰本線、播但線のダイヤ検討会という関係なんだけど、複線云々もそ

こでやられてるっていうことで、その辺が。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 新聞報道が出ましてから、具体的にどこでどうするというのが、今のところはまだ決まってない状況なんです。

○委員（浅田 徹） ごめんなさい、続けてください。

○都市整備課長（久田 渉） はい。とはいうものの、兵庫県並びに沿線の自治体のほうと足並みをそろえて、今後、維持存続に向けて関係機関で調整しなければならないと思っています。だけど、今のところちょっとそれが、どこでどうするっていうところまでがまだ決まってない状況でございます。

○委員長（上田 伴子） どうぞ、澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今後、但馬地域鉄道利便性向上対策協議会という組織がございます。これは、兵庫県、それからJR、それから沿線自治体などが加盟している団体があるんですけども、そこを中心になって今後、今のこの赤字路線についての発表後の対応について検討していく予定としております。

来週、県民局長のほうも豊岡市長のほうに来られて、この協議会についてどういう方向でいこうかというようなことが今後話される予定となっております。今の状況としましてはその程度のことで、具体的に今後どうしていこうかというのは、これから順次決めていこうというふうに考えております。以上です。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 確かに鉄路というふうなこと、それと一市町も関わるということで、路線は路線でございますけども、利用者云々にすれば、広域的に市とまた県をまたぐというようなことになって、頭は兵庫県かなと思います。

ただ、豊岡にしましても、やはり、城崎の城崎温泉もありますし、特に山陰線ですけども、方向が豊岡に集中する、そういう通学の問題、どうしてもこれは避けて通れないというふうなことで、これは当然、中心的とはいませんが、豊岡も大いに関わっ

ていかなくはない課題かなと思いますけども、言わば、今のなかではJR県関連自治体、そこでこういう話が進められるということの認識でよろしいですか。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） そこでどういった方向性を出すかということ、まず地元として決めていきたい。今回、直接JRさんまでは入った話にはならないと思います。関係自治体だけの話で、JRに対してどういうふうな話を持っていこうかと、そういった方針になろうかと思えます。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（浅田 徹） ひとつその辺につきましては、中心的に豊岡、関係の山陰本線、中心的な駅でもありますし、特に但馬の中心ということもあって、しっかりと議論をお願いしたいということ。

それともう一つはWILLER、これも京都丹後、KTRがこれも上下分離というふうなことで、運行のほうは、言わば経費を各関係、京都府も含めてですけども、その辺の、さらに今度は観光というふうなことが多いかなと思っています。やはり豊岡から宮津、橋立というか、この言わば北の山陰からにかけてのゴールドルートと位置づけをするわけですけども、今後の展開というのは、このコロナ禍でどんどん利用者が少なくなっているというふうなことを含めて、やっぱり赤字になれば、当然これはもう関連の豊岡としてもこの負担金ですね、それは次回もその中で言われたもんを払ってくれというふうな、そういう立場で、何でしょうか、いやいや、もう少し考えていこうねというふうなところでの豊岡市の立場というものをちょっと教えていただければと思います。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すみません。先日、コロナの関係のWILLER TRAINSさんについての支援をどうするのかという会議があったんですけど、京都府及び京都府の沿線市町、兵庫県としては兵庫県とうちしかないもんでして、一応今のところは京都府さんのほうが音頭取り、事務局

をされてるんですけども、今うちのほうも、そちらで出た見解に、できるだけ皆さんで足並みをそろえて進んでいこうとしています。これが夏以降、新たな支援要望が出た場合は、事務局の京都府さんのほうも、ちょっと今までの支援方法は見直し、考え直していかなければならないというようなことを言われてます。

ただ、今の時点で、今回の打診が出てるのはこの1月から3月までのまん延防止が出てる部分についての減収措置になってまして昨年度から話合いが進められてますので、これについてはこのとおりでいくということで、沿線市町として、今後夏にかけてまた次の支援要望が出たときは、再度検討しなければならぬと聞いてます。

○委員長（上田 伴子） はい、浅田委員。

○委員（浅田 徹） コロナ禍も含めて、今のそれぞれ山陰線、播但線のダイヤ等も含めてですけど、非常にコロナ禍で大きな、JRも含めてですけども、KTRも含めて見直すということを考えますので、その辺の情報っていうのは早いとこ議会のほうにも共有しながら進めて行かざるを得ないというように思ってますので、今後ともよろしくその辺の共有をひとつよろしくお願いします。

○都市整備部長（澤田 秀夫） ちょっとよろしいですか。

○委員長（上田 伴子） はい、澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 北近畿タンゴ鉄道の会議の中では、今、福井まで北陸新幹線が入ってきます。その福井から若狭沿いを通して、ずっとこの山陰線まで引っ張っていこうと、そういったような議論も北近畿タンゴ鉄道の沿線自治体の中では出ておりますので、先ほど議員が言われたように、観光客を取り込むという意味で、やっぱり新幹線で福井まで来たお客さんをさらに西に引っ張っていこうと、そういった将来的な展望についても話合いは出ております。補足しておきます。

○委員長（上田 伴子） ほかに。

石田委員。

○委員（石田 清） すみません。この話、前の事

務概要、3月でしたっけ。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（石田 清） 見せてもらったときに、ちらっとJR西の社長さんの記者会見があったということで聞かせていただいておったんですが、基本的に国土交通省の、何ていうんだ、地域モビリティ刷新に関する検討会ですか、そこが2回目まで今行われて、7月には報告を出すという中で、国としての検討が行われていると。その中で、オブザーバーとしてですけども、全国知事会も入ってまして、JR西さんもオブザーバーとして入ってます。JR西さんが出した資料、1回目のときはもう出とったかな。非常に今回の報道に対するような意向がたくさん盛り込まれておりますけども、基本的にその検討会の結果が大きく左右してくると。それ以前の話で、地方が右往左往しても、何か焦点が定まらないような話になるんじゃないかなと。

今やらなきゃいけないのは、この前お話しになったときに、豊岡市のレベルとか、そういう市町村のレベルではなくって、もっと高いレベルでやらなきゃいけないかというような話の中では関西広域連合という話が出てましたけども、今の焦点は、夏までの取組の焦点は、その検討会の結論をどう持っていかということじゃないかなと。

もちろん全国知事会のほうもそのことは考えながら出ておると思いますし、だから、鳥取県知事のコメントがなかったということもあると思いますけども、今やるべきことは、その国交省の検討会、今後の方針を左右するそこに注力するという形の中で、兵庫県も知事会も関西広域連合も考えなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っておりますが、この取組の基本的な方針として、今、豊岡市はどうするんだという話もあるんですけども、どう考えておられるのか。そういうような、それはちょっと違うぜという話なのか、お聞きしておきたいんですが。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今言われましたように、確かに国のほうで検討会のほうはされておりますけれども、具体的な詳細まではちょっと把握していない状況です。

すけれども、具体的な詳細まではちょっと把握していない状況です。

国に伝えるにしても、最終、国になるんですけども、やはり地元からの思いとか、地元、それぞれ地域によって鉄道に対する思い、考えはまちまちだと思いますので、この但馬は但馬の思いというものをやはりしっかり県に伝えて、そこを県からまた国につないでいていただきたいというふうに考えておりますので、最終、どういう取りまとめをされるかは分からないんですけども、やはり地域事情に応じたことをしっかりと豊岡市としては伝えていきたいというふうに思っております。

○委員長（上田 伴子） 石田委員。

○委員（石田 清） そういう準備とともに、やはり国の動向が大きく左右するような感じを今受けておりますので、もう少し高いレベルって、都道府県レベル、知事会レベル、そこら辺の取組の強いプッシュをお願いをしたいというふうに思いますのと、そこに、この前の新聞報道に出てたような資料を既にJR西がその検討会の中に提出しておりますけども、そこを見てても、今回の赤字路線の取り方、感覚的、どういう形という、詳細分かりませんので感覚ですけど、非常にJR西の恣意的な取り方じゃないかと感じをしております。

さらに、どういいますかね、報道だけしか分かんのですけども、山陰線自体は全体としては赤字だというような報道もあったところです。それを含めますと、非常にJRのテーブルの上に乗って右往左往してるような感じがしましてね、もう少しJRさんの手元の資料の実態をつかんでいただきたいなというふうに思います。

それから、幸いにも福知山から城崎までが今回対象になってませんけども、この前お聞きしてありましたら、輸送密度が2,006人、ほとんど見直し対象だったというんですね。だから、これについてもよくよく考えておかないと、福知山から城崎はいんだというような話の中には収まらない事情が出てくるんじゃないかというふうに思っておりますので、その辺も情報収集しながら、できればこん

な状態だということを、機会を見つけてはお伝えいただきたいなど。

それ以上、私も意見を言うような勉強もしてませんが、基本的には上下分離方式だとか、何といふかな、バス路線の運輸形態を変えるだとかいうような方向に持っていきたいという、はっきり頭の中にありますんでね、それをよろしくお願いをしたいというふうに思っております。以上です。

○委員長（上田 伴子） 要望でいいですか。

○委員（石田 清） はい、要望。

○委員長（上田 伴子） ほか、ありませんか。いいですか。じゃあ、竹中委員。

○委員（竹中 理） すみません。空港の利用促進についてですけども、3月の委員会、全体的にあんまり変わってないんですけど、さっきお聞きした3月委員会の次の日にあり方懇話会があったというふうにお聞きしてるんですけども、うちの党のほうからも一応聞いているのはいろいろと聞いているんですけども、今の県としての齋藤知事のそういういろんなあれもあると思うんですけど、豊岡市としてどういうふうに訴えられているのかっていうか、そのあり方懇話会の様子をもう少しちょっと詳しく教えていただけたらと思いますけど。

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） あり方懇話会は結局その最終的な取りまとめはできずに、中間報告ということで、まず、今後の取組としまして、短期、中期、中長期とこの3つに分けた取組をやるということ、短期、まずすぐやることなんですけども、とにかく需要回復、非常に利用が少なくなっている需要回復を地域挙げて取り組んでいこうというのが、まず短期の目標になっております。それから短期につきましては、やはり同じなんですけども、但馬・京丹後地域で空港を中心として高速道路網も整備されておりますので、北但馬、北近畿を中心として、とにかく需要の回復をするということが、まず短期の目標となっております。

それから次に、中期としまして、やはりRESAの問題です。令和9年3月末までにRESA対応を

しなければならないので、まず次にそれをしましうと。それで、中長期ということで、そこで空港機能の見直し、強化ということです。要するに、滑走路延伸に伴ってジェット化になる、ジェット化になることによって東京直行便に行くという、こういった3本の柱が立てられました。

市としまして、市長のほうが委員として参加してるわけなんですけども、市長が発言されたのも、やはりエアラインが非常に疲弊してますので、まずそこを立て直すことが重要であると、ひいては需要回復に市として力を注いでいきますと、こういったことを市としての考えとして発表されております。以上です。

○委員（竹中 理） 分かりました。

○委員長（上田 伴子） いいですか。

○委員（竹中 理） はい、以上です。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 細かいことで、先ほどバスのノーマイカーデーの拡大ということで、大変ありがたいというか、ということの中で、先般もお聞きしましたかな、振興局で販売拡大をせいよというような話をちょっとしてるんですけども、さっき振興局でやりますいう話、まず、ノーマイカーデーの、第4金曜日だったかな……（「はい」と呼ぶ者あり）拡大される、それはいつからということと、それから振興局で販売なんかはされるのはいつからか、そのスケジュールがあったら聞かせてください。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） まず、この開始は5月からです。

○委員（福田 嗣久） 5月ね。

○都市整備課長（久田 渉） チケット販売については、5月開始ですが、詳細日程は調整してますので、今即答はちょっとできません。だけど、5月からということ考えております。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。5月からで、確かにそう。5月からということで分かりましたので、次は振興局でできるだけ早く対応できるようにお願いをしておきたいとの、また、いつからという

ことが決まりましたら、ちょっと私、また教えていただけませんか。

○都市整備課長（久田 渉） はい。

○委員（福田 嗣久） よろしく申し上げます。
それから、質問が続けてで。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（福田 嗣久） 質問が重複してましたけど、JR西の発表のことで、大変難しい問題だなということが一つあるのと、JR西の民営化がもうとおの話、以前の話になってますけれども、どうなんだろうということ、ほとんど国も保有株ないわな。完全民営化かいな、これは。

○委員長（上田 伴子） 民営化、民営化。

○委員（福田 嗣久） いやいや、完全っちゅうのは、JTあたりに3割は国が持つてるんだけど、JR西の場合、東の場合はほとんど放出しちゃつとるんかいな。その辺の情報はどうですか。

要するに、国が半分放出する、また次は1割放出するって段階でやってたと思うんですけども、JTは多分3割をまだ国が持つとる、あるいは51%持つとるかもわからんけれども、JRはどうだったんかなと思って、ほとんど放出してるんじゃないかなと思うんですけど、その辺の情報はどうですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） すみません、ちょっと勉強不足です。また後日報告します。すみません。

○委員（福田 嗣久） ほとんど放出してるんじゃないかなという思いがあるんですけども、JR西に、私もう3遍ほど要望に行かせてもらったことがあるんですけども、大変冷たいんだ、どちらにしても。豊岡市や連合で行ったような気がするんです、議長や副議長のときに。大変冷たいなという気がして、多分、今の話につながるんですけども、ほとんど政府の所有がないんだろうと思う。当然、県もないんだろうし、京都府もないんだ、大阪もないんだろうし。

民営化、完全民営化されてしまっていると、自治体の話よりもやっぱり株主の話になっちゃうんで、大変弱いで、先ほど聞いておりました検討委員会と

やらの中で、自治体で豊岡市だけが云々という話にはならんと思うんだけど、兵庫県とか京都府とか大阪府とか、地方公共団体が株式を所有するような話はあるのかないのか、全くないのか、ちょっとその辺も聞かせていただきたいな思うんですけど、いかがですか。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） その辺につきましても、また併せて報告させていただきます。今のところはちょっと即答ができません。すみません。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 基本的に皆さんもご承知だろうけども、関西電力の大株主は大阪府とか大阪市とかがありますわね、かなり声を出していきますね。それはもう長い経緯の中で株主構成に入っておられるんだと思うんですけども、この今のJRの発表の仕方、さっき浅田委員も言われましたけども、非常にJRのそこだけの発表になっちゃってますわね。地方公共団体は、特にJR西の管轄で、今の発表を聞いておったら、兵庫県、それから鳥取県、島根県、それから中国三県のあの辺りの話だったんで、やっぱり声を出しても、基本的には民営会社であるとすれば、声が届けへんと思うわ。

やっぱり株主に対しての、株主に対する責任が一番になっちゃうからね、従業員に対する責任、株主に対する責任、これが主になっちゃうから、そんなこと言われましても、乗ってもらえなかったら何もできませんよという言い方をずっとしとるわ、JR西あたりは。それは福知山でもそうだったし、大阪でも、本社でもそうだったと思うんですけど、豊岡市さん、そんなこと言われても、乗ってもらってなかったらもうどうしようもないです、物すごい冷たい言い方をされてきたような気がするんです。

そうすると、これをはね返すのは相当大きな力が要するだろうなということで、いろんなやっぱし検討会、あるいは広域、さっき話が出てました広域とか、あるいは新幹線の敦賀のこと考えたら敦賀、小浜、舞鶴、宮津、京丹後、豊岡とか連合体の中で相当知恵を出していかないと、もうJR西の、要する

に経営としての最優先事項が優先しちゃうということになってしまいうndらうなということで、この検討委員会のつくり方、あるいは関西広域のつくり方、大変重要になってくるんだらうなという気がするんです。

だから、株主になることが話にあるのかということとはちょっと気になったのと、その検討会を、どういうランドデザインを描いて検討会を立ち上げていくのか、この辺のことが大変重要になるし、もう一つは、さっき、JRの敦賀の北陸新幹線が東京から入ってきますけど、それを利用するとすると、北陸やもそうだし、関西の北側あるいは鳥取含めて、島根含めて、このラインの構成が大変重要なんだらうなという気がして聞いておったんですけどもね。

だから、そういう検討会をどう上手に、当然兵庫県も京都府もですけども、あるいは福井県もだらうと思うし、鳥取県もだらうと思うけれども、そういう構図をどうつくるんかっていうことが大変重要な課題違うかなと思っておるんです。ですから、兵庫県だけの考えじゃなくて、この広域での鉄道沿線を守っていく懇話会とか検討会とか検討委員会とかいう形が大変重要になるなという気がして、その検討委員会の立ち上げを、さっきおっしゃってましたけど、どう検討していくのか。

それから株主にだって、株主だって声が出せるでな、そういったことも含めて、これは広域で検討せんなん違うかなという気が非常に今、聞きながらしていますんで、今答えが出ると思えませんので、またよくよく市長あたりとも相談されながらしていただけたらどうかなと思って、また途中経過は聞かせていただきたいんですけどね、そんな気がいたしておりますんで。

○委員長（上田 伴子） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今言われたことも考えまして、させていただきたいと思います。また報告させていただきます。

○委員長（上田 伴子） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） それともう一つは、WILLERだけじゃなくて、WILLERはまだ狭いんで、

もうちょっと広げる必要があると思うのは、やっぱりその検討については。WILLERのほうは、京都丹後鉄道については、兵庫県の持分ですから、はい、2,000万円出してくださいと、これだけの話ですと来てるけども、それではやっぱりちょっと頼りなさ過ぎるんで、もっと広域のランドデザインが描けるようなことをやっぱり豊岡市からも気張ってアピールして行って、広く巻き込んでいくようなことが必要だらうなという気がしますんで、その辺は今後の課題として早急にお願いができればと思いますので、よろしく願います。

○委員長（上田 伴子） 要望でいいですね。

○委員（福田 嗣久） 要望でいいです。

○委員長（上田 伴子） 先ほどのノーマイカーダーのチケットの振興局販売はいつからってというのはありましたっけ。

○委員（福田 嗣久） それは早く検討しますよ、こちらで多分。

○委員長（上田 伴子） 分かりました。

ほかはないですか。

○委員（浅田 徹） よろしいか、一つだけ。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 高規格道路の関係です。山陰、近畿ですけども、非常に喜ばしいのが、城崎道路が2月ということと、県がここは国代行というふうなことで、これも正式決定。これは国が直接の財布でありますんで、非常に進捗が期待できるということがあります。円山川とかも含めて、大きなまた橋梁が。

そこで、実際この言わば問題は調査、やっぱり境界を決めていく、これは地籍調査事業、これしかないということと、当然県土整備部も先行地籍で、早めに決めておくというふうなこと。これは担当が農林水産になるんですけども、それも密にやっつかないと、予算はつくけども、全然土地境界が決まってこないというふうなこともあると、我々市が要望しながらブレーキをかけるというふうなことがあります。

その辺もね、これは要望ですけど、きっちり密に、

これは県もそうですけども、たくさん先行調査の予算をつけていただいて、かつまた集中して、この区間はやっぱりオール豊岡市を挙げて土地境界、つまり事業進捗して、座標をつけて、きっちりと確定していく。そういう勉強をしないと、予算がついたり、直轄になっても事業が進まないということが大いに考えられますので、その辺はしっかりお願いしたいなと思いますけど、どうですか、今の状況、この連携については。

○委員長（上田 伴子） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 先ほどの直轄権限代行の関係、正式に言いますと、今年度は城崎道路について、国の直轄による権限代行実施の検討を行うための調査なので、はっきり権限代行するという事は決まっていらないんですが、ただ、それに向けた調査という、それを行うための調査ということなので、前には進んでるということですし、当然その方向に行くんじゃないかなというふうには思っています。

地籍調査につきましても、既に城崎道路の分であれば結は完了していますし、あと森津の辺りも昨年度から立会を実施してますので、順々に進めておりますので、その辺りは心配はしておりません。以上です。

○委員長（上田 伴子） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） 特に先行してというのは、県が、やはり特に但馬圏内の広域の高速道路網をいち早く、決まってから山の中の境界をとというふうなことじゃなくて、そういうためにつくってくれたものですので、当然県も国代行という方針はずっと当初から決まっておりますのでね、そういう、言わば準備できてますよと、そういうことをアピールしながらも呼び込むと、これはもう市が頑張らないとという気がしますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

それと、最後一つ、今、JRの基本的なやり取りでちょっと気になったんですけども、民営化になってから、確かに豊岡というか、但馬は物すごくJRは冷たいです。乗降客、つまりその対価が上がってこない。だから、例えば駅舎の改修も含めて一銭

もJR出しませんし、広場の整備から、大きな駅舎行けば、豊岡、江原駅とかあるわけ、日高あるわけですけども、みんな都市計画事業で地元が負担して、駅舎も整備しないと特急とか急行も止めないみたいな、こんな話がどんどんこれから出てくるかなと思ってます。

ですから、当然豊岡というのは人口も多いし、但馬では主たる云々ということで、うまく話を持っていかないと、もう全てまた豊岡がかぶっていく。国はそういう施設に対しての補助は出しますけども、こういうダイヤに関しては一切これ、口は出してもお金は出しませんので、十分にこの辺は、やっぱりそういうことも含めて腹をくくった、豊岡が中心になっていかないともう負担ばかり豊岡が、施設の管理からも含めてですけども。

ですから、JRはもう関西とかどどん駅造りますけども、全部自治体がとんでもないお金を出して止めてますんでね、その辺が豊岡っていうのは悩ましいなというところで、しっかりこの辺は早めの対応をよろしくお願ひしたいなと、重ねてお願ひします。

○委員長（上田 伴子） すみません、私ちょっとあれなんですけども、この間から豊岡駅の券売機が、券売機になって、みどりの窓口がなくなって、私、高齢者ですので、ちょっといつもみどりの窓口で…（「それは言わなくてもええわな」と呼ぶ者あり）買うんだけど、娘なんかはもうネットで駅の切符は全部購入して、そこで支払いするから、そんな駅で買ったりせえへんって言うんやけど、多分そういう若い方たちが増えてると思うんだけど、やっぱりまだあそこで買うっていう人もあると思うんです。

市民の、今はあれだけでも、ウィズコロナになったら、多分乗客を増やすためにも、やっぱりあそこでチケットを買って乗るという行為をする人が徐々に増えていくかなと思う中で、この間行ってきたら、インフォメーション押してくださいって書いてあって、分からなかったら、で、押したら、ただいま大変混み合っておりますので、27分間お待ちくださいって言うて、ほんで待ってたら、次の若い女性が来はって、買われますよね言ったら、はい、

すみませんって言われて、じゃあ、インフォメーションストップして、で、買いはって、その方が買いましようかって言うてくださって、ほんでちゃっちゃっちゃっちゃ、スマホのあれと見ながら買ってくださったからよかったけど、大変だなと思って。

そういうのを、どういうんですか、みどりの窓口がなくなって、券売機になって、その使い方とかを何も書いてないんです、あんまりそこに、券売機があるだけで、分からない方はインフォメーションを押ししてくださいみたいなことしか書いてなくて。何かそういう市民へのお知らせというか、周知というか、そんなんはどこがするんやろうなと思って、何か市民サービスの点からも、市としてそういう何か広報なりなになり、何かそんなんでしたかなと思ったり。何か4月から券売機になっているんですけども、そこら辺ちょっとまた考えてもらいたいなと思います。

○委員（浅田 徹） いや、多分、市がお金出したらちゃんと置きますよって話ですわ、JRから言わせたら。

○委員（福田 嗣久） そんな難しいことになるとる。そんな高齢者は切符が買えんようになる。

○委員長（上田 伴子） はい、そうなんです。

○委員（芹澤 正志） 関連していいですか。

○委員長（上田 伴子） はい。

○委員（芹澤 正志） それで、定期の購入も何か5時までしかできないらしいです、今は。（「らしいな」と呼ぶ者あり）やっぱり通勤されてる方が帰りの電車のついでに買おうと思っても、5時までには買わなければ買えないみたいな現象があるみたいなんですよ。あまりにも不親切だなというのも聞きますんで、ちょっと確認をして。（発言する者あり）

○委員長（上田 伴子） 澤田部長。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 今の定期の購入時間の確認等はさせていただきます。

それと、先ほど上田委員長のほうから言われた、切符を買うときに駅員さんが常時ついてされるということをお聞きしてましたし、私もこの間見に行ったときには、駅員さんがいろいろと説明して、購

入される方の補助をされておられるのは見ておったんですけども、たまたまおられなかったか何か。

○委員長（上田 伴子） おられたんですけども、やっぱり乗降客の、多分1人だったかな、だで、そこんところの切符の受渡しとかしとられて。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 駅長からも、やはりなかなか不慣れな方が多いので、必ず誰か1人つけてるんですということはお聞きしとったんですけども。

○委員長（上田 伴子） そこら辺におられなかった。

○都市整備部長（澤田 秀夫） 再度それは確認させていただきます。

○委員（石田 清） ちょっとよろしいですか。

○委員長（上田 伴子） はい、石田委員。

○委員（石田 清） みどりの窓口の話も、それから福知山支社を廃止するという話も、今回の路線の見直しも全て一連のもんです。

○委員（浅田 徹） JR、もう統括は大阪に行っちゃうと、福知山も。

○委員長（上田 伴子） そう、もうね、大阪に行っちゃうって言うてる。

○委員（浅田 徹） とんでもない。とんでもない僕は合理化やってるんだろうと思う。

○委員長（上田 伴子） 大阪に行っちゃってるって聞きました。

○委員（浅田 徹） だって、城崎駅を温泉、城崎温泉いうたら、5、000万円、市、出して、5、000万円出して駅名変えたんやから。そんなことも含めてね、はいはい、変えますわって言うそういう話じゃないんで、もう全て、駅名変更だけでも本当に、豊岡市が払ってますんでね。

○委員長（上田 伴子） ほかはないですか。

○委員（芹澤 正志） いいですか。

○委員長（上田 伴子） はい、芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） 先ほどの山陰近畿自動車道の推進決起大会はまだ未定、今年度は未定ですか。

○委員長（上田 伴子） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 豊岡でやる分であれば、こちらに書かせていただいているように、8月6日

の土曜日に予定をしております。

- 委員（芹澤 正志） ああ、ここ。
- 委員長（上田 伴子） ここ。
- 建設課長（富森 靖彦） 北近畿豊岡自動車道と合同でということで予定をしております。
- 委員長（上田 伴子） 芹澤委員。
- 委員（芹澤 正志） 東京は参加予定ということで。
- 委員長（上田 伴子） 富森課長。
- 建設課長（富森 靖彦） 東京のほうは、まだ現時点ではいつというのは決まっています。例年であれば11月ぐらいですし、去年はコロナの関係があったので、1月にウェブで開催されたということになっています。分かり次第、関係各所には連絡はさせていただきます。以上です。
- 委員長（上田 伴子） よろしいですか。
- 委員（芹澤 正志） はい。
- 委員長（上田 伴子） ほかはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（上田 伴子） それでは、ないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますが、この際、当局から何かご発言はありますか。振興局の皆さんもご苦労さまになっておりますので、何かありましたらどうぞ。よろしいですか。（「ありません」と呼ぶ者あり）

委員の皆さんも何か発言はありますか。（「ありません」と呼ぶ者あり）

それでは、ないようですので、当局の職員の方は退席をさせていただいて結構です。ご苦労さまでした。

また今度、管内視察でお世話になりますが、よろしくお祈りします。

ちょっと5分ほど休憩しましょうか。いいですか、休憩なしでもいいですか。

じゃあ、一気にやっちゃいますね。（発言する者あり）はい。

それでは、委員会の運営方針について、次に、前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項、Side Books上の本日のフォルダの資料4ページに配信しております。ご覧ください。（「4ページ」と呼ぶ者あり）はい。今来ました。（「重

点事項ですね」と呼ぶ者あり）はい。この件について協議をお願いしたいんですけども、何かご意見があったらお願いします。

- 委員（福田 嗣久） まだな、鉄道。
- 委員（芹澤 正志） ここには鉄道載ってないんですよ。そこをどうするか。
- 委員長（上田 伴子） そうですね。
- 委員（浅田 徹） 今だったらまだ等に入れられるか、入れとくか。
- 委員（福田 嗣久） 公共交通に入るからな。
- 委員（浅田 徹） ああいう状態だ、公表されたというふうなことなんで。
- 委員長（上田 伴子） いいですか。
- 委員（福田 嗣久） 公共交通に入るんで。
- 委員長（上田 伴子） それでは、これでよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

では、特にご意見がないようですので、当委員会の重点調査事項を現行のとおりとし、変更しないことにしたいと思いますが、ご異議はありますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（上田 伴子） 異議がないようですので、そのように決定しました。

では、（3）その他についてです。

この際、何かご発言はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 委員長（上田 伴子） それでは、ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。

午前10時29分閉会
